

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が自信をもって社会に巣立つよう、「文武両道」の理念のもと、本校の校訓である「堅忍不拔」「好学叡知」「和衷協同」の実践を通して、生涯にわたり、「自ら学び続ける力」を育むとともに、高いコミュニケーション力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、リーダーシップを発揮して社会貢献できる生徒を育成する学校、地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。 ①確かな学力の育成と第一志望の進路実現 ②豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成 ③生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上
--

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と第一志望の進路実現

- (1) 「わかる授業」「力をつける授業」をめざした授業の質の向上に取り組み、第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。
 - ア 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業等を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに組織的に授業力の向上に取り組む。
 - イ 基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容並びに指導法の改善に努める。全教科において基礎的事項の確実な定着を図る。
 - ウ 「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を養う授業を行うとともに「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」(アクティブ・ラーニング 能動的学習)を取り入れ、生徒の主体的な授業参加と活動量を増やし、学びを深める。
 - エ パソコン、プロジェクター、書画カメラ等の ICT を活用した授業づくりなど、様々な授業の工夫を行い、よりよく「わかる授業」、「力をつける授業」を実践する。
 - ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成 29 年度 82.6%)を上昇させ、2020 年度には 85%以上にする。
 - ※ 学校教育自己診断における生徒の授業満足度(平成 29 年度 71%)を、2020 年度には 80%以上にする。
 - ※ 「学力生活実態調査」における 1,2 年生の GTZ の B への確実な定着をめざすとともに、将来的には A に引き上げる。
- (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。
 - ア 習熟度別少人数展開授業の充実を図る。
 - イ 進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施する。
 - ※ 学校教育自己診断 「学習支援の充実」 2020 年度 90%以上をめざす。(平成 29 年度 80%)
- (3) アクティブ専門コース(アクティブ音楽コース、アクティブスポーツコース)の充実。
 - ア 生徒の得意分野や興味・関心の深いエリアをさらに支援し、伸ばすことを目的としながら、自信や意欲を支える自尊感情や自己肯定感を高め、自己実現をめざす志を育み、学習面とは違った側面から学力の向上も図る。
 - イ 何事にも積極的に取り組む姿勢を育むとともに、リーダーシップ、忍耐力、集中力、協調性、社会性、奉仕の精神など、社会で必要とされる「生きる力」を育む。
- (4) 3年間を見据えたキャリア教育計画等の充実により、生徒のキャリア意識の向上を図り、100%の第一志望の進路の実現をめざす。
 - ア 学年・教科・分掌が連携し、希望する進路に応じた支援の充実を図ることを通して、将来の夢や目標に向かって学習に取り組む姿勢を養い、第一志望の進路実現に向けて最後まであきらめず頑張りぬく生徒を育てる。
 - イ 進路指導部、学年が協力して、総合的な学習の時間、LHR を計画的に実施し、キャリア教育を推進することを通して、将来について自ら考え、夢の実現に向けて自ら行動する生徒を育てる。
 - ウ 学力の客観的評価、学力生活実態調査等を継続的に使用し、その結果を分析し、進路指導等に生かす。
 - エ 進路の情報提供の充実を図る。(進路コーナーの充実。HP へのアップ、提供機会の増加。)
 - オ 漢検・英検等資格試験の受験者を増加させ、より難度の高い資格に挑戦させる。
 - ※ 第一志望の進路実現率を 2020 年度 85%以上にする。(平成 29 年度 72.4%)
 - ※ 大学入試センター試験 受験率を平成 30 年度から 3 年間で 60%以上にする。(平成 29 年度 51.4%)
 - ※ 学校教育自己診断 「1,2 年時からの進路を意識した学習のスタート」 2020 年度 50%以上をめざす。(平成 29 年度 36%)
- (5) 自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。
 - ア 授業外校内学習指導の実施により、自律学習を支援し、学習意欲の向上、家庭学習の充実を図り、学力向上をめざす。
 - イ 生徒の学習に対する初期指導として、入学当初に学習オリエンテーションを実施する。
 - ウ 学習と学校行事や部活動との両立を図る。
 - エ 自習室や図書室の利用を促進する。
 - ※ 学校教育自己診断 「家庭学習を十分行っている」 2020 年度 70%以上をめざす。(平成 29 年度 59%)
 - ※ 部活動の加入率を 2020 年度に 90%とし、それを維持する。(平成 29 年度 88%)
 - ※ 図書室の貸出冊数を 2020 年度に 1500 冊以上にする。(平成 29 年度 1068 冊)
 - ※ 高い目標として関関同立の合格者数を 3 年後に 100 名以上に伸ばす。(平成 29 年度 51 名)

2 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成

- (1) HR 活動、学校行事、生徒会活動、部活動等で生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶとともに集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
 - ア 体育祭、文化祭、修学旅行、芸術鑑賞等の学校行事の充実を図る。
 - ※ 学校教育自己診断 「行事が生徒中心に組織的・効率的に運用」 2020 年度 90%以上(平成 29 年度 89%)
- (2) 生徒の自主性、主体性を重視した生徒会、CM 会議(部活動のキャプテン、マネージャー会議)、保健委員会、図書委員会等の活動を充実させ、生徒の可能性を最大限に伸ばす教育を実践し、生徒の自己有用感を醸成する。
 - ア 生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動、あいさつ運動等の充実を図る。
 - ※ 学校教育自己診断 「生徒会活動が活発」 2020 年度 90%以上(H29 年度 85%)
- (3) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに、挨拶や通学等のマナーを向上させる。
 - ア 基本的生活習慣の確立を図るため、欠席、遅刻についての指導を強化するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
 - イ 生徒の安全確保と地域に信頼される学校づくりの一環として、自転車通学を中心に通学マナーの向上に取り組む。
 - ※ 学校教育自己診断 「基本的生活習慣の確立に力を入れている」 2020 年度 95%以上(平成 29 年度 89%)
- (4) 人権教育、国際理解教育をすすめ、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。
- (5) 海外からの生徒の受入れ等、グローバル人材の育成に向けた取組みを実施する。
- (6) 保護者との連携を図りながら、安全で安心な学校づくりを推進する。特に生徒理解、教育相談の取組みをさらに組織的に発展させるとともに、個々の生徒への支援体制を一層充実させる。
 - ア 家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担当会、保健部会、教育相談委員会、就学支援委員会などで組織的に検討し、指導の充実を図る。
 - イ 長期欠席者等への相談体制の充実を図る。
 - ウ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。
 - ※ 学校教育自己診断 「家庭とのきめ細かい意思疎通と相談について」 2020 年度 90%以上(平成 29 年度 82.5%)
- (7) 開かれた学校づくりにより保護者や同窓会、地域との連携を密にし、さらなる生徒の育成を図る。
 - ア 地域イベント等において生徒の出番を多く設定することにより、地域コミュニティの中での「育ち」を支援する。
 - イ 地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」を開催する。
 - ウ 平成 31 年に創立 40 周年を迎えるにあたり、準備委員会を設立し、学校、保護者、同窓会の連携を強化する。

3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

- (1) ICT の活用等、仕事の効率化、危機管理対応等の充実をめざし、校内組織の見直しと体制づくりを行う。スクラップ・アンド・ビルド方式を基本に、必要に応じてプロジェクトチーム等の新設及び改廃を行い、円滑な組織運営を行う。また、本校のめざす学校像の実現に向けて一丸となって課題に取り組む教職員集団づくりをさらに推進する。
- (2) オン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行うとともに、香里会(新任を中心とした研修チーム)を活用した経験の少ない教員等の育成を図る。
- (3) 校務処理システムのスムーズな導入等 ICT を活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員の ICT 活用能力を高める。
- (4) 教育環境等の整備、予算の効果的執行を行う。
- (5) 広報活動の充実を図り、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする。
 - ア 文化広報部が中心となって中学校や地域住民に対する広報活動を充実させる。
 - イ ホームページ、香里丘メールサービス配信等で情報提供に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
-----------	----------	-------------	------	------

1 確かな学力の育成と第一志望の進路実現	(1)「わかる授業」「力をつける授業」をめざした授業改善と 第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。 ア、公開授業、授業アンケート、教員研修等を活用した授業改善の推進と授業力の向上	(1) ア・各授業の初めにその授業の目標（「何を学ぶか」「何ができるようになればよいか」）を提示するとともに、授業の終わりに振り返り（「何を学んだか」「何が身に付いたか」）を行う。 ・各教科で研究授業、研究協議、互見授業等をさらに活発に実施する。公開授業週間を6月と11月に実施し、その時期を中心に、年間2回互見授業を行い、感想シートを授業担当者及び首席に提出し、授業の質の向上につなげる。 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ、授業アンケート結果を各教員及び教科で効果的に活用し、授業改善を推進する。 ・ベル始業、机上整理を徹底させ、生徒の授業への集中度を高める。 ・観点別評価を推進し、対話型、発表型の授業を行うなど、アクティブラーニングの視点からの授業改善に向けて実践研究を行う。また、大学入試制度改革や学習指導要領の改訂に対応するため、教員研修を充実し、授業改善、授業力向上の取組みの活性化を図るとともに、新制度入試への対応を検討する組織を立ち上げ、対応策を検討する。さらに英語の4技能をよりよく伸ばすために英語の授業改善を推進する。また、必要があれば教育課程や授業形態等についても検討する。 イ・全教科において基礎的事項の確実な定着を図るために、生徒の基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容や指導方法の改善、検討を行う。また、全教科で3年間を見通した「学習ルートマップ」を作成し、定期的に到達度の検証を行う。さらに、「学力生活実態調査」をより有効に活用し、国・数・英の基礎学力の定着を図る。 ウ・ICT 機器や視聴覚機器を積極的に活用した授業づくりを組織的に学校全体で推進し、生徒の授業への集中度を高め、より効果的な授業を行う。また、機器不足のために授業で活用したくても活用できないことのないように、「学校運営推進費」の獲得をめざすなど、設備等の充実に努める。	(1) ア・授業観察時の授業目標提示と振り返りの実施率 85%以上（平成 29 年度 79%） ・各教科で研究授業・研究協議を年間3回以上実施できたか。学校教育自己診断における「互見授業」の授業改善への活用率 78%以上（平成 29 年度 75%） ・学校教育自己診断における「授業へ集中して取り組む」率 85%以上（平成 29 年度 82%） ・アクティブラーニングを取り入れた研究授業を各教科1回以上実施できたか。 ・アクティブラーニングや大学入試制度改革、学習指導要領の改訂等授業改善、授業力向上に関する研修が実施できたか。 イ・1年、2年の第2回「学力生活実態調査」のGTZ「B」（平成 29 年度:1 年 B2、2 年 C1） ウ・授業で ICT を活用した教員 65%以上（平成 29 年度 58%） ・学校教育自己診断における「授業の工夫」70%（平成 29 年度 67%） アウ・「興味関心、知識技能」に係る第2回授業アンケート満足度 85%以上（平成 29 年度:82.6%）。 ・学校教育自己診断 授業力向上関連項目平均 75%以上（平成 29 年度 70.7%）。 アウ・関関同立の合格者数を60名以上。（平成 29 年度 51 名）本校の教育システム項目の学校教育自己診断肯定率 83%以上。（平成 29 年度 80%） (2) ア・ 学校教育自己診断 講習 65%以上（平成 29 年度 58%）補習 65%以上（平成 29 年度 58%）「学習支援の充実」83%以上（平成 29 年度 80%）。 ・模擬試験、漢字検定、英語検定受験者、昨年比 5%増。 (3) ア・アクティブ専門コースの次年度選択人数を 40 名以上。アクティブ専門コースの授業内容充実の取り組み状況。 (4) ア・ 特に進路指導部と第3学年の連携強化。進路指導室の充実状況（常駐体制の確立、連携状況等） ・学校教育自己診断で進路に関わる項目の肯定率の平均 80%以上（平成 29 年度 78%）。進路希望未定者、0%の維持。 イ・ 学校教育自己診断で進路情報提供項目肯定 75%以上。（平成 29 年度 73%）「進路についての家庭への連絡や適切な情報提供」の肯定回答を 78%以上。（平成 29 年度 75%） アイ・生徒アンケートにより第一志望の進路実現 75 %以上（平成 29 年度 72.4%）。 ・学校教育自己診断 「1,2 年時からの進路を意識した学習のスタート」40%以上（平成 29 年度 36%） (5) ア・参加者 70 名以上。（平成 29 年度 66 名） ・ アンケートで肯定平均 95%以上。（平成 29 年度 99%） ・家庭学習の充実。学校教育自己診断 63%以上。（平成 29 年度 59%） ・ 図書室の貸出冊数 10%増（平成 29 年度 1068 冊） ・ 学習意欲を高める取組みに広がりや深まりがあったか。 イ・学習支援の取組み状況と終了時刻の厳守。
	イ、基礎学力の定着		
	ウ、ICT を活用した授業づくりの推進		
	(2)一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する ア、個に応じた学習指導の実践	(2) ア・進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施し、学力の高い生徒から学習到達度の低い生徒に対し、学び続ける生徒の育成を図りながら、学力の定着をめざす。模擬試験や各種検定試験に向けた指導を充実し、受験を促進する。	
	(3)アクティブ専門コースの充実。 ア、専門コースの授業内容のさらなる充実	(3) ア・アクティブ専門コースがより生徒の期待に応えるものとなるように、授業内容等のさらなる充実を図る。高大連携等を推進し、教育活動の充実、深化を図る。また、そのための施設、設備の充実を図る。生徒のニーズにさらに応えるために、新たな専門コース設立の可能性について探る。	
	(4)生徒のキャリア意識の向上を図る。 ア、系統的なキャリア教育の推進 イ、適切な進路情報の提供	(4) ア・「学力生活実態調査」の活用、大学見学会の実施等三年間のキャリア教育計画と進路指導体制をさらに充実させ、キャリア意識の向上を図る。また、e ポートフォリオについての実践的研究を始める。 イ・進路コーナーの充実、HP へ進路情報のアップ、情報提供機会の増加など進路の情報提供の充実を図る。	
	(5)自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。 ア、自学自習の習慣の確立	(5) ア・昨年度より新たに導入した Web 予備校の活用をさらに推進し、自学自習の取組みの充実を図る。また、授業外校内学習指導をさらに活発に行い、自立学習の充実を図る。 ・入学当初に学習オリエンテーションをさらに充実させて実施する。また、自学自習の習慣化に向けた新たな取組みについて検討する。 ・学校図書室のさらなる活用などを通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 ・昨年度新たに設置した「まなびワンポイントコーナー」をさらに充実させる。授業以外の場面における生徒の学習意欲を喚起するような取組みや環境づくりについてさらに検討し、実行できるものは実施する。 イ・アクティブ専門コースを中心とする部活動内での学習支援の充実。行事や部活動の終了時刻の徹底により、学習との切り替えを図る。	
	イ、学習と学校行事や部活動の両立		

府立香里丘高等学校

2 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成	(1) 生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶ。 ア、生徒の自主性を育む HR の充実 イ、学校行事の充実 ウ、部活動の奨励 (2) 生徒会活動の充実 ア、自主性、主体性を重視した生徒会活動の奨励 (3) 規律ある学校生活 ア、通学マナーの向上 イ、遅刻指導の強化と挨拶の奨励 ウ、校内美化の推進 (4) 不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力の育成 ア、人権教育・国際理解教育のさらなる充実 (5) グローバル人材の育成 ア、海外の生徒との交流 (6) 安全で安心な学校づくりの推進 ア、PTA 活動の推進と家庭との協力体制の充実 イ、個々の生徒への支援体制の充実 ウ、教育相談の充実 (7) 開かれた学校づくり ア、地域コミュニティの中での「育ち」の支援 イ、地域の学校や団体との連携・交流 ウ、来年の創立 40 周年事業の企画	(1) ア・生徒の自主性を尊重し、「香里を考える HR」の充実を図り、学校生活改善の提言をさせ、帰属意識を高める。 イ・体育祭・文化祭の生徒の達成感をさらに向上する。 ウ・新入生に対し、部活動入部を強く勧める。中学校との合同練習、地域への貢献活動、クラブ員による出身中学校訪問等を引き続き組織的に実施する。 (2) ア・生徒の自主性、主体性を重視した生徒会活動を奨励し、中学生対象の授業・部活動体験での発表、新入生歓迎行事の充実、CM 会議、クラブ総会の充実、保健委員会、図書委員会の活動の活性化など、生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動の充実を図る。また、一昨年度に改修した校門前花壇の管理を 1 年間通して行う。 (3) ア・通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。 イ・基本的生活習慣の定着に努め、遅刻者数の減少を図る。日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気醸成する。 ウ・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。 (4) ア・LHR, 「総合的な学習の時間」を中心として、効果的な人権教育・国際理解教育を展開するとともに、人権教育・国際理解教育のさらなる内容の充実を図る。 (5) ア・海外の生徒等との交流を計画的に行う。特に、本校の生徒とモンゴルの学生とのテレビ会議による交流の実現を図るなど、国際交流の機会を増やす。 (6) ア・PTA と共催で、人権研修や登校指導等を実施し、保護者との連携して安全で安心な学校づくりを推進する。 イ・障がい等の事情により、学校生活を送るにあたって困難を伴う生徒について、就学支援委員会で生徒支援カード等により収集した情報を共有し、個別の支援計画など、保護者と連携しながら作成、充実した指導をめざす。 ウ・教育相談体制等をさらに充実し、スクールカウンセラーと学年との連携を深める。生徒への声掛けをより充実させる。 (7) ア・地域イベント等において生徒の出番を多く設定することにより、地域コミュニティの中での「育ち」を支援する。 イ・地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」の開催数を増やす。 ・地域の学校や団体との連携・交流をさらに充実させる。 ウ・平成 31 年に創立 40 周年を迎えるにあたり、準備委員会を設立し、学校・保護者・同窓会の連携を強化する。	(1) ア・生徒からの学校生活改善等提言内容によって評価する。 イ・満足度 90%以上を維持。(平成 29 年度 91%) ウ・部活動加入率 1 年生 89%以上。(平成 29 年度 88%) 出身中学校訪問 3 部以上。中学校との合同練習 10 回以上。 (2) ア・CM 会議年間 25 回以上。クラブ総会の年 3 回の継続と内容の充実。 ・保健委員会による、学校保健委員会での活動報告。 ・図書委員会、年 5 回以上。活動状況。 ・年間を通した花壇の管理状況。 ・学校教育自己診断「生徒会活動が活発」肯定率 85%以上を維持。(平成 29 年度 85%) (3) ア・毎日登校および下校時の自転車指導の実施。 イ・遅刻者数前年度比減少(平成 29 年度 652 名) ・挨拶運動の実施と日常の教職員からの挨拶を含む声かけを継続的に実施できたか。 ウ・校内美化についての学校教育自己診断の肯定率 80%以上(平成 29 年度 78%) (4) ア・人権を学ぶ機会 学校教育自己診断 80%以上。(平成 29 年度 76%) (5) ア・海外生徒等との交流を 2 回以上実施。(平成 29 年度 0 回) (6) ア・PTA による登校指導を 6 回以上実施。 ・人権を学ぶ機会 学校教育自己診断 保護者 85%以上を維持。(平成 29 年度 85%) イ・委員会を年 4 回以上開催し、全体で情報を共有し生徒の支援をする。 ウ・学校教育自己診断(悩み相談)58%以上。(平成 29 年度 56%) (7) ア・地域イベントへの参加状況。 イ・「香里カップ」「香里フェス」を合わせて 5 部以上の実施。 ・連携・交流の状況。 ウ・準備委員会を設立、年度内に 3 回開催し、記念事業を企画する。	
---------------------------	---	--	--	--

府立香里丘高等学校

3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上	(1) 校内組織の見直しと体制づくり ア、危機管理対応等の充実。 イ、円滑な組織運営（スクラップ・アンド・ビルド方式）と一丸となって課題に取り組む教職員集団づくり (2) 経験の少ない教員等の育成。 (3) ICT の有効活用。 ア、ICT を活用した校務の効率化 (4) 広報活動の充実。 ア、効果的で適切な情報発信	(1) ア・地震火災対応・AED の使用について教職員・生徒への周知等を工夫する。 イ・プロジェクト委員会が中心となり、必要に応じて PT や委員会を新設及び改廃し、教職員の意見を大切にしながら、円滑な組織運営を行う。その際、原則、有志参加者も募るなど教職員の参画意識の向上を図る。また、今年度新たに、首席及び各学年間の連携がより円滑に進むように「首席・学年主任連絡会」を設ける。 (2) ア・新任から 2 年目までの教員対象の勉強会「香里会」を実施する。自信を持って授業や生徒指導等にあたることができるよう進める。研究授業を実施するとともに、危機管理を含めた保護者対応、授業、部活動指導等について先輩教員の指導に学ぶ。 (3) ア・情報処理委員会を中心に校務処理システム等 ICT の活用をさらに推進し、校務の効率化を図る。 ICT を活用して教材等の共有化や成績処理など、日常業務の軽減を図り、教材研究をする時間を確保する。 (4) ア・中学生学校見学会、HP の更新、中学校訪問など文化広報部が中心となって中学校や地域住民に対する効果的で適切な広報活動を充実させる。 ・メール配信登録者に年間通じて情報提供に努め、学校の情報が保護者によりよく伝わるようにすることによって、家庭との協力体制のさらなる充実を図る。	(1) ア・防災訓練 2 回実施。生徒、教職員対象 AED 講習会の充実。学校教育自己診断 80%以上。（平成 29 年度 75%） イ・PT や委員会の新設改廃状況。円滑な組織運営。学校教育自己診断(学校運営)平均 65%以上。 （平成 29 年度 59. 5%）学校運営への参画意識 50%以上（平成 29 年度 44. 0%）。各組織間の連携が円滑 68%以上(平成 29 年度 64%) (2) ア・香里会を年間 5 回以上実施。研究授業の実施状況（初任者：年 2 回以上、2 年目：年 1 回以上）。アンケート肯定平均 85%以上。（平成 29 年度 81%） (3)ア・ 全教科で ICT を活用した教材共有システムを開発し、その活用状況。成績処理の ICT 化等、業務軽減の状況。 (4) ア・ 学校見学会年間 3 回実施、参加者 1200 人以上（平成 29 年度 4 回 1412 人）、HP を 月 7 回以上更新する、中学校訪問年 2 回実施 ・ メール配信登録者、80%以上。年間配信数 130 件以上。 （平成 29 年度：登録者 77. 3%、年間配信数 137 件）	
-------------------------	---	--	--	--